# ※　ガ　　ニ　　娘

あるところにじいさんとばあさんがいた。じいさんは毎日山の畑に粟をまきにいった。

ある日粟をまいていたら、山の方からきれいなアネチャがでてきて、酒コのませたいと思って来たといって酒を出した。じいさんは喜んで飲んだがよって来てねてしまった。アネチャはガニの化物で、ガニになってじいさんの胸から血を吸った。吸いおわったガニは山に帰っていった。

夕方目をさまして、家に帰ろうと思ったが体がふらふらして困った。家に帰ったじいさんはすぐ寝てしまった。ばあさんは山さガニの化物がでるというので、血を吸われたのではないかと思った。

次の朝、じいさんはごはんもたべられないと、おきてこなかった。それでばあさんは、じいさんの着物を着て、ほほかむりをして山にいってまっていたら、また娘が酒をもってでてきた。ばあさんは、ガニの化物だろうと鍬でたたいた。カニはつぶれて死んでしまった。ばあさんは仇をとったといって帰った。

じいさんは元気になって山にいった。今日もあのアネチャ来てければいいなと思っていたら、山の方からカラスがとんできて、

ハサミはこちら、こうらはあちら、あしコはそちら、カーカー

と、いってとんでいった。